



医師による医師のための ChatGPT 入門

臨床がはかどる魔法のプロンプト

大塚篤司＝著

定価 3,850 円／A5 判・208 頁／医学書院／2024

ChatGPT を使いこなせば、あなたの臨床がもっと楽に、もっと効率よくなる！ ChatGPT の登場後、難しそうと敬遠する医師がいる一方、日常業務を効率化し生産性を上げている医師もいる。本書は、ChatGPT に苦手意識のある医師や研修医に向けて、ChatGPT を中心とした生成 AI の基本的な使い方から日常業務での活用法に至るまで、具体例とともに解説する。“お一つか先生”から研修医・花咲アイさんへのレクチャー形式で展開。コピペでそのまま使える、著者秘伝のプロンプトを集めた Web 付録付。

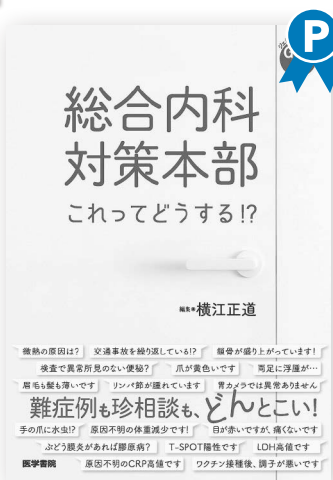


皮膚科手技大全 [Web 動画付]

大塚篤司＝編

定価 8,250 円／B5 判・208 頁／医学書院／2024

皮膚科手技を行うことは皮膚科医の日常診療に欠かせない。本書は、専門医を目指す皮膚科研修医・専攻医、ならびに若手皮膚科医が身に付けておくべき 36 の手技やテクニックについて、3 段階のレベルに分けてエキスパートの知恵と技を紹介する。手技ごとに詳しい手順や方法を示した Web 動画も収載し、より理解を深めることができる。AI には決して真似できないエキスパートの正しい「型」がわかり、自分の手技に自信が持てるようになる。



総合内科対策本部

これってどうする!?

横江正道＝編

定価 4,950 円／A5 判・372 頁／医学書院／2024

「微熱の原因は?」「リンパ節が腫れています」「両足がむくみます」「爪が黄色い」「鎖骨が盛り上がっています」「眉毛も髪も薄い」「目が赤いですが、痛くありません」「交通事故を繰り返しています」「手の爪が水虫です」「ワクチン接種後、調子が悪いです」「原因不明の CRP 高値です」「腫瘍マーカー高値です」「T-SPOT 陽性です」「尿の色がおかしいです」……。総合内科には日々、さまざまな相談が寄せられる。難症例・珍相談に応えます!

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.971)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



安全に狂う方法

アディクションから掴みとったこと

赤坂真理＝著

定価 2,200 円／A5 判・260 頁／医学書院／2024

人を殺すか自殺するしかないと思った。そんなわたしに女性セラピストは、このうえない毅然さと丁寧さでこう言った。「あなたには、安全に狂う必要が、あります」——。そう、自分を殺そうになってまで救いたい自分がいたのだ。そんな自分をレスキューする方法があったのだ。

著者はあらゆる生きづらさの底にアディクションを発見するが、「アディクション＝依存症」ではないと言う。それは物との恋愛であり、思考への固着なのだと。愛と思考とアディクションをめぐる感動の旅路！



細胞診のベーシックサイエンスと臨床の実際

坂本穆彦＝編

定価 11,000 円／B5 判・264 頁／医学書院／2024

細胞診のベースとなる
基礎医学的知識と臨床的意義を
エキスパートがわかりやすく解説！

好評書『細胞診を学ぶ人のために』の姉妹書
セットで使うことで、より理解が深まる！

医学書院

細胞検査士をはじめとする細胞診にかかわる人が知っておくべき基礎医学や疾患概念、診療の基本といった知識をコンパクトにまとめたテキスト。標本作製や顕微鏡所見の取り方など、細胞診業務に携わるうえで不可欠な素養として持つべき知識の要点を解説している。



『病院』2024 年 6 月号 (Vol.83 No.6)

特集 人を重視した病院組織マネジメント

松原由美＝企画

定価 3,300 円／A4 変判・80 頁／医学書院／2024

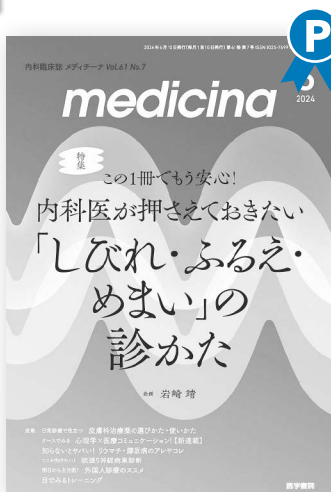
人が多い時代においては、人が組織に合わせる働き方が当然視されていた。しかし少子高齢化が加速し、多くの産業において人手不足が生じている今、人に組織が合わせる時代となった。病院の価値を創造するのは人である。人とは何かを多面的に探りながら、人を重視し人を生かす病院経営の在り方を探る。



『BRAIN and NERVE』2024年6月号 (Vol.76 No.6) 特集 注意と注意障害

BRAIN and NERVE 編集委員会＝編
定価 3,080 円／A4 変判・100 頁／医学書院／2024

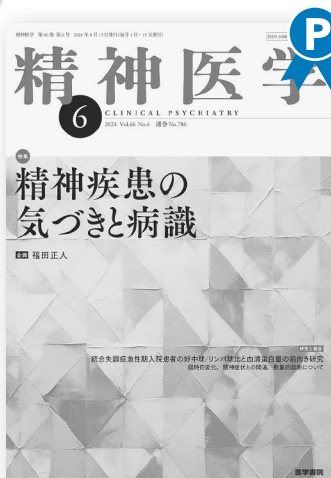
「注意」は言語、行為、知覚、記憶、遂行機能などと並んで、ヒトの重要な高次脳機能領域である。また、他の認知機能領域の背景にあるとも言え、「意識」とも密接に関係している。本特集では、注意の神経機構やワーキングメモリとの関連など基礎分野の話題から、各種検査法、半側空間無視や注意欠如多動症の病態、そしてリハビリテーションの進め方など臨床的なトピックまで包括的に取り上げた。注意障害の背景にあるメカニズムを探り、患者の病態的的確な把握、そして効果的な治療につなげる一助になる 1 冊。



『medicina』2024年6月号 (Vol.61 No.7) 特集 この1冊でもう安心! 内科医が押さえておきたい 「しびれ・ふるえ・めまい」の診かた

岩崎 靖＝企画
定価 2,970 円／B5 判・184 頁／医学書院／2024

臨床の現場では「しびれ」「ふるえ」「めまい」は最もありふれた患者の訴えである一方、最も対応に苦慮する訴えでもある。患者の訴えるそれらの症状は多彩な症候を含んでおり、背景となる疾患もさまざま。「年のせい」「心配ない」「異常ありません」として片付けられる例も多いのではないだろうか。一方で生命や神経機能に重大な影響を及ぼす病態、緊急に対応を必要とする疾患が紛れている可能性は十分にある。本特集では「しびれ」「ふるえ」「めまい」について原因疾患や鑑別のコツ、新しいアプローチなどについて解説している。



『精神医学』2024年6月号 (Vol.66 No.6) 特集 精神疾患の気づきと病識

福田正人＝企画
定価 3,080 円／B5 判・128 頁／医学書院／2024

精神疾患の大きな特徴は、「本人の気づき」が難しいことである。当事者にとって、気づきの難しさは、医療についての信頼と納得という医療の基本を感じにくくさせる要因となる。そこで、「精神疾患についての当事者の気づき」について、さまざまな視点からの捉え方をまとめる特集を企画した。多くの精神疾患に共通する気づきの難しさとともに、それぞれの疾患の特徴に応じた気づきの難しさがある。医療者の視点からの気づきの難しさとともに、当事者の視点からの気づきの難しさがある。精神疾患についての気づきと病識を俯瞰した本特集は、読者の「精神疾患と精神医療の新しい展開への気づき」の機会となるだろう。